

中国で最初の博覧会 南洋勸業会について

鍾 少 華

前言

南京に遊び、秦淮河を巡る。わたしはとうに廃れてしまった勸業のルートをどうしても知りたくて、20世紀初葉に中国で最初に開催された博覧会（南洋勸業会）の遺跡を訪ねた。そして80余年前の史料と対照して、本文を執筆した。

南洋勸業会の由来

展覧会は世界で昔からあるが、近代的意味での展覧会（Exhibitionあるいは博覧会、勸業会）は1756年英国のロンドンにて始まり、その後各国に広まった。一世紀半の後、西洋で展覧会のない国はなく、それが開かれない年はなかった。日本においてさえ、いろんな名前の展覧会が毎年盛んに開催されていた。展覧会は実業競争のひとつの重要な手段となり、民族、地域の全面的な発展を促す機能を有していて、地域の近代化の程度を知り、比較評定するに格好の窓口ともなっていた。劉楨麟は「中国の商務を興すべく展覧会の開催を論ずる」という文章において、中国が展覧会を開くと利点となる8つを挙げている。——友情の交り、物産の拡張、人材の奨励、経済事情の調査、貿易の拡大、関税の増加、商業地の興隆、長年の習慣の廃棄。

こうして中国で最初の博覧会、南洋勸業会がついに開幕する頃には、当時の新世代の知識人たちに好意をもって迎えられた。彼らは積極的に計画、実行に参加し、研究、企画をすすめて、多くの研究報告を発表したのである。

光緒三十四年〔1908年〕十一月十四日、両江総督の端方と江蘇巡撫の陳啓泰が「江寧省城〔現南京〕に南洋第一回勸業会の開催を計画し、官商が合資して、気風を開き、農業・工業を奨励すること」を奏請した。その文

中には欧米の農業・工業・商業の発展が、競技の盛んなる奨励によってもたらされたことが紹介されている。しかも勸業会は日本でさえ、すでに20回ほど開催されている。こうして、最初の勸業会が江寧で開かれることとなった。開催の原則は、一、趣旨は純粹とする、一、規模は小さく、一、体制を尊ぶ、一、褒賞は十分にす、一、準備は速やかにする、との五つであった。

この報告に朱筆が入れられ批准された後、端方はすぐに陳蘭薫を坐弁に任じ準備を急いだ。まず、江寧、上海のそれぞれに南洋勸業会の事務所と董事会〔理事会〕を設け、計画にしたがい進行を三段階に分けた。一、各項規約を協議し、建築設計図を描く。二、会場を企画し、国内各地の物産を調査する。三、建築を完成させ、展示品を集める。事務所は、日本の展覧会開催の規則を参照に、規約を制定する一方、両江が管轄する各府に対し、域内の農産、工芸、美術、教育の各分野の物品を探し集め、その地において定期的に展覧会を開催するため、展示品の準備をするよう命令を発した。また一方、他の各省や重要な開港場にたいし、出品協会の設立を求める書状をおくっている。各地の関道や勸業道を監督とし、漁業・牧畜業の物産、機械、図書、および各項目で製造された新奇な物品を収集し、展示品と勸業の基礎を組織するよう指示している。この他には、各省の名士、学界、商業界の開明的で事情に通じた人たちと連合して協賛会を組織し、交通を企画し展覧会への出品を補助した。その後、協賛会は勸業道孫多森を責任者とした。

勸業会の規約では次のように定められている。資金の供出については、総額50万円とし、それを10万株に分け、一株5元とする。官側が半分を出資し、残りを民間が引

き受け、農工商部の有限公司規約にもとづいて処理をすること。もし会の閉幕後、利益がのこった場合は株に応じて等しく分配し、損失があった場合は官側の株から補填をすること。会場地は南京城の北極閣より北、紫竹林より南を区画とし、広さは約700畝〔約466,690㎡〕、会終了後は評価額で売却する。会長は南洋大臣が担う（準備時は端方、開会時は張人駿）。副会長は官側三、民間二の5人で、他に董事が12人。輸送した各地の展示品は政府の承認を得て一律無税とした。

勸業会が正式に開催されていた期間は、宣統二年〔1910年〕四月から九月までである。会場の周囲は約7里、場内の建物には29棟の展示館があり、その内専門館が12館、華僑展示品館が1館、外国展示品館が2館、その他各省館、勸工場、博山ガラス館、記念塔（中にエレベータあり）、緑筠花圃、嬉笑奇觀処など。会場内には軽便鉄道を巡らせ4つの駅がもうけられている。各館の飾りは華麗で堂々としていて、内部の展示品は数十万点はある、そのそれぞれに統一したラベルが掛けられている。ラベルの表には、物品、品名、数量、価値、産地、製造者氏名、物産地が明記されていて、裏には効用、毎年の産出額、毎年の販売額、運送・販売の地方などが記されている。入場券は一枚2角で、値段が高いためか、記者の調べによると、展覧会期間中、一日の平均入場者数は300から400人で、半年間で7万人ほどにすぎなかった。

逸品揃いの工業展示品

下関で汽車に乗り、寧省鉄道沿線の丁家橋にて下車すると、南洋勸業会の正門に着く。牌樓を過ぎ、大門をくぐった西側に工芸館がある。工芸館の中ホールに模型が陳列されていて、前後のホールにはガラスの陳列棚に実物が展示されている。内容は、染織工業、採掘・冶金、陶器、土木建築、製造工業、化学工業の各部門。どれも逸品揃いのようであるが、まず製品を知るには比べてみるのが一番である。たとえば、中国古代の手織り布の染色技術は世界トップといえるが、19世紀になると西洋の機械技術によって超

えられてしまっていて、展示館にある多くの紡織品は、まさに手織りと機械の交代する時代を飾るものであった。当時、国内には織物工場が4000棟余で、労働者が20万人余いたが、その中の外国人経営の工場とごく一部の民営工場だけが、比較的良好な設備や管理によって、良質の製品を作っていた。

大部分の国産の製品は、品質は外国に劣らないが、紋様における、染色、配色、紋様の織りの面での科学的知識が欠けていたので、低価格だが顧客を引き付けるには不十分であった。同様に、綿綏工芸商局の各種の花絨毯、湖北勸工院手工善技場の各種の羊毛絨毯などが、似たような苦境にあった。

絹織物製品は昔から中国人の誇りなのだが、すべて手織りで大量生産ができない。19世紀末になってようやく日本の手拉鉄木合制〔座操り法?〕を導入し、小工場を建てそこで生産したが、欧米の市場はとうに日本に奪われていた。ある専門家は、湖北、南京、蘇州、杭州、鎮江などの各会社の展示品を比較研究し、杭州の織物技術は軽やかで精巧さを尊び、縦糸が少なく、模様は西洋に学んだ趣があり、華麗でとても巧み、色は明るく美しく誇るにたる、と認めている。ただ、外国の絹織物製品と比べてみるとどうであろうか。ある参加者は入場者の服飾に鋭く注目し、こう書いている。

《しかしながら、入場者の服装を仔細に眺めるなら、春から秋への変わり目には、外国の紗を着る者が2、3割、秋から冬への変わり目には、外国の緞子を着る者が3、4割、日本の縞子が1、2割である。女性たちが襟から出し入れする絹のハンカチが、みな非国産品であることも、驚くことではないだろう。》

これに対し、一部の有志が改良を提案した。それはたとえば絹織物製品の競技会、絹研究所の設立、染色競進会の設立、新しい織機の普及、染織学校の建設、留学生や商務調査団の派遣などである。

採鋌・冶金製品は国の重工業の象徴であり、また清末政府が実業の重点としたものであったが、展示品はよくなかった。光緒

末年には全国に銅採掘場は62箇所あったが、技術はまったく時代遅れで、工芸館では天然銅と黄銅鋳が見られるだけで、銅の精錬品はなかった。当時、銅さえすべて輸入に依存していて、10年間で輸入量は数倍も増加し、丁文江氏を感嘆させた——輸入の銅はますます増え、銅貨の铸造もますます盛んなのは、わが国民にとって福ならず、と。

工業製品はじつは軽工業製品である。江西景德鎮の磁器は肌理細かく滑らかで、絵柄も鮮やかで艶があり、彩色釉も精緻で美しく、ある一对の彩花帽筒などとても素晴らしいが、形式は昔のままである。湖南醴陵の磁業会社の製品は、形式が目新しく、絵も生き生きしているが、釉色に雅さがなく、地色が青みかかっている。聖人とかかわりのある磁器セットには、孔子の誕生から死去するまでの大小148点あり、醴陵磁器工業学堂の教師と学生が共同で生産したもので、大変面白い。湖北セメント製造工場は創意工夫を凝らし、展示館の庭の池に三孔のコンクリートの橋を建造し、橋の中ほどは丸木のあずまやをなし、あずまやの上には獅子や高い塔の模型があり、すべてがセメント製品で、橋の下は鉄道用の鉄筋コンクリートの枕木が数本使われているが、半ば鉄筋はむき出しであった、と説明書に書かれてある。化学製品については、有名無実といってよく、わずかに石鹼、蠟燭、ゴム糊があるのみであった。

機械分野の展示品は、機械館に陳列されているが、見劣りする僅かなものしかなかった。北洋勸業工場製造のマッチの切片機やボール盤、上海求新鉄工場の抽水機や搾油機、徳州製造局の無煙銃弾製造機、上海美華利の二つの大きな時報時計。武器は武備館と蘭鎗館（江南製造局）に陳列されている。ただ、理由はわからないが、なんと40年前の鉄砲、子母砲、それに刀、弓、盾、軍服などが展示されていて、自ずと時代遅れがわかるのである。運通館の陳列品となるとさらにわびしく、たった数台の車と船の模型があるだけで、そこから当時の交通状況を理解することはできない。

農業館は千年農業大国の象徴

農業館は会場の中心ゾーンにあり、千年農業大国の象徴ということである。方形の大ホールの展示品は、農業、養蚕、茶、園芸、林業、水産、飲食、狩猟の八つにわかれている。

中国農産物の品種は、数千年の人工や自然による選択を経て、じつに多種多様で数え切れないほどであるが、『授時通考』に記載されている稲の種類だけでも、800種以上ある。20世紀の初め、中国は西洋といくつかの品種の交換をしていたので、農業館には、伝統的な優良品種もあれば、中国で試験的に栽培された多くの新しい西洋品種の成果もある。ある人が中国と西洋の農業や農民の特性を比較して、次のようなことを言っている。西洋の農民は科学に依拠しているので、農業分野の進歩が飛躍的であるが、中国は《農民が耐えてよく働くが、労賃は安く、不規則で、栽培の方法も古く、肥料を状態に応じて施すことを知らないし、輪作の方法も知らないので土壌がやせていく》と。

農業館に展示された産品や農業品種はとも多く、来館者の賞賛をえたものが多くあったが、批判的意見も多かった。たとえば展示した農作物では、芽がかび腐れたものがとても多く、虫に喰われたものも多かった。いくつかの展示農作物はそろってなくて、たとえば粟はあるが米がなかったり、穂の標本はあるが茎根のがないといったふうである。農作物の展示ラベルの表示には多くの漏れがあり、統一された基準がない。たとえば品名の総称、固有名、俗名、古名が混用され、南洋の果物になると音訳さえ使用されている。展示品の種子の選択は大雑把である。農作と関係する益虫や害虫の展示はとても少ない。農業の説明図版は少なく簡単なものである。水産物では製品がなく、新式の漁具もないなどである。

新式教育の成果の展示はしきりに議論をまねく

教育館は工芸館の向かいに立っていて、正門の東側である。千余年の間、儒家規範の科学制度が中国の人材の形成に深刻な影響を及ぼしてきた。勸業会が開催される5、6

年前、清政府はようやく科挙制の廃止を宣布し、六芸（古典）の試験に改め、あわせて西洋教育システムに依拠して中国の教育システムを改革した。当時、国内に約151万の小学生、4万の中学生、1万余の女学生、1万余の実業学生、数千名の大学生がいて、内外の新しい教師を大量に必要とし、教材、教育方法、教具を急いで大量に改変する必要がある、さらには徳育、知育、体育、美育といった分野から新しい学生を養成しなければならなかった。これはとても大きな任務である。教育館の展示品は、まさに新しい教育の成果と欠点を如実に示している。I字型の展覧大ホールには、小学、女学、中学、師範、実業高等、図書・祭器の六大部門に分けられ、展示品はガラスの棚に飾られている。

各レベルの学校の展示品は、教科書以外では、学生の学習と創作、たとえば手工、習字、図画、裁縫、刺繍、手工芸、機器、標本などである。図書・祭器部門の展示品の図書は、商務印書館、江蘇官書局、集成図書公司、国学保存会、文明書局の出版物を主とした。標本、機器は科学・祭器館が最多で、商務印書館の各種の印刷器具、及び中国図書会社の彩色石版も展示の中に並んでいる。

それらの教育成果は、見学者の評価の議論が一番多くあったものである。こうした議論は大方次の数項目に整理することができる。一、疑わしい偽造品が多いこと。二、あるべき展示品の欠落が多いこと、たとえば、小学校の机、椅子、小学生の書画の成果、児童教育の遊具、小学校の教授管理の研究報告、小学校の主な理化学具と掛図、中学生および師範生の採集記録と実習レポートなど。三、あるべきでないのにどうしたわけか、教育に入れられた展示品。たとえば、小学生の書いた扁額、小学生の描いた日本風俗、日本女学校の堆絹屏風、米国勝家公司のミシン。四、展示品に粗悪なものが多い。五、教材の深刻な不足と大学の展示品がきわめて少ないこと。六、学生体育の紹介不足。七、展示品の学名表記が常に間違っていること。八、郷土教材の不足。九、西北地域の教育資料がきわめて少ないこと。

美術精品と外国実業製品の印象

美術館は小さな洋館1棟を占めていた。館内は工芸門、鑄塑門、手工門、彫刻門の四類に分かれている。中国の美術品は世界文明の宝庫の中の逸品揃いであるので、美術館は見学者の鑑賞の重要な場所となっていて、その中の多くの世に稀な逸品は、中華民族文明が永年積み重ねてきた成果である。

数多くの精品の中で、古物が大変注目をあつめた。乾隆景泰藍大宮動一對(3500両)、隆象牙涼席(1200両)、周窯磬、漢殿銅瓦、諸葛武侯銅鼓(2万両)、黄炳臣家藏歷代銅錢34箱計1000余種、および明清各窯磁器など。

南洋勸業会を計画から開催までの全体の過程や影響を検分してみると、中国実業の振興の分野において、たしかに開拓的な仕事なされてきたことが分かるのである。各地の展示品の選択や展示を通じて、全国の実業界を大いに励ました。しかしながら、規模の大きさや深さの面からみると、その達成は非常に限られたものであった。

国民の文化水準を高める分野では実際の収穫もあった。事前の宣伝、展示品の選択、会場の見学、比較評価の研究を通じて、これまでになかった普及効果を確実に達成し、新しい思考を触発した。ただし、全国的に言えば、やはりはるかに不十分であって、見学者の少なさがそれを証明している。

この他に、会場内には暨南館（華僑の実業製品の紹介）と二つの参考館（独、米、英、日本の4カ国の公司による中国におけるダンピング製品の紹介）があり、それは中国の見学者に強烈なコントラストの印象を与え、国内外の実業における水準の格差を実感させた。当時のある校長が感慨を次のように書いている。

《この館（暨南館）に遊ぶと気色満面となるが、続いて参考館を巡るとわたしは驚愕で震えるのであった。その陳列品をよく見ると、良いものばかりで、実用に合わないものがまったくない。どれもわが国が目下必要としているものばかりである。これによって、外国人が平素から中国の嗜好を注意深

く調査していることがよく分かる。道理で、輸入品が日ましに増加し、止まることがないわけである。》

展示効果はよくないが研究と影響にみるべきものがある

とくに言及するに値することは、当時の人が勸業会開催期間においてなした研究である。宣統二年〔1910年〕五月二十一日、張謇らが「南洋勸業会研究会」を組織した。その目的は「同志を集め、南洋勸業会の展示品について、その技術の優劣や改良の方法を研究し、その進歩を導く。勸業の真の趣旨と合致し、展覧会の実効を吸収せん」ためである。蔣炳章が主席、李瑞清が会長、張謇が総幹事をなし、書記に孟森、幹事に黄炎培らが当たった。この研究会は半年間で一連の活動を進めた。一、多くの研究員を招き展示品の研究をし、研究報告103部を発刊した（後に『南洋勸業会研究報告書』を刊行）。二、学術会議を七回開催した。内容は農業、

林業、教育（女子の纏足解放問題を含む）、などの分野で、報告者は馬相伯、袁梓青、柳詒征、沈恩孚、李白曾らであった。三、連絡、座談、意見書の受領など。四、全国農務連合会設立の準備。

研究会の各種の研究報告は、勸業会の成功を一致して評価しているが、同時に展覧会には多くの欠点のあることも指摘している。柳詒征は報告書の中で明確にこうのべている。「勸業会は、社会心理の実験室であり、出口（輸出）の類別を見れば、今日社会の人の思想がどうであるか分かるのである。」と。勸業会開催の意義と価値を見事に指摘している。勸業会には、展示品が少ないとか、準備期間が長すぎるとか、展示品は粗悪なのに費用は莫大であり、しかも展示品の多くにニセモノがあるといった数多くの弊害や欠点があった。しかし率直に言って、このような始まりによって、古い歴史の中国が近代化に向けて邁進すべく一歩を印しえたのである。

（翻訳：成田昭男・車道図書館職員）

- * 原文「中国第一次博覧会——南洋勸業会」『悠游録——鍾少華散文集』学苑出版社、2005
- ** 翻訳にあたって、つぎの文献を参考にした。
 - ・吉田光邦『日本と中国——技術と近代化』三省堂書店、1989
 - ・『中国早期博覧会資料匯編』第1巻、全国図書館文献縮微複制中心、2003

心ときめき

日々の暮らしの中で、胸の高ぶりやときめきを覚えることは、千年前の日本人も現代人と何ら変わらなかつたようです。「ときめく」は、本来〈時+めく〉からなる語で、時世に合致して声望を得ることを表す動詞でした。また「ときめき」は、「ときめく」から生じた名詞です。現代日本語の「ときめき」に相当する平安時代語は、『枕草子』の表現が如実に物語っているように、「心ときめき」と言えるでしょう。（文学部教授 和田明美）

『枕草子』

～「心ときめきするもの」～

雀の子飼^{がひ}…よき男の車^{くるま}と
どめて案内^{あんない}し問はせたる…
待つ人などのある夜、雨
の音、風の吹きゆるがする
も、ふとおどろかる。

（日本古典文学大系 29 段）

私の「ときめき」 文学部1年 袴田梨紗

幼い少年の無邪気な笑顔
平和な毎日の始まりを告げる小鳥たちのさえずり
1Fと4Fで振動が伝わった糸電話
夢中になってボールを追いかけ、そして散る汗
青春を一緒に過ごした仲間と流す涙
いつも温かく迎えてくれるキャンパスの施設
新しい世界へと導く教授陣の講義
はちきれんばかりに収納された書庫の本
何げない毎日だけれど その一瞬一瞬に
わたしのときめきがつまっている